

伊藤大使による JICA チェア・プログラム第3回講義への出席

2022年11月11日、伊藤大使は、アディス・アベバ大学（AAU）と JICA エチオピア事務所が共催した JICA チェア・プログラム第3回講義「激動の世界における日本外交（第二次世界大戦後の日本外交）」に出席しました。

伊藤大使は来賓挨拶において、日本とエチオピアの共通点として、外国勢力からの植民地化を退け、当国は1896年にイタリアに、日本は1905年にロシアに戦争で勝利し、当時の数少ない非西欧諸国の国際連盟加盟国の一員であった点を紹介しました。一方、日本は1945年に第二次世界大戦に敗れた後、戦後の悲惨な状況から短期間で国際社会に復帰し、世界第3位のGDPを誇るまで急激な発展を果たした事実について言及しました。さらに、アセファ・マメチャ氏による「日本の道」というアムハラ語の本について触れ、日本が伝統や文化を保持しながら、いかに近代化・産業化を果たしたのか、同国が学ぶべき点が多くあるという指摘について言及した上で、鶴岡大使による本講義も今後の同国における発展に寄与することに期待する旨言及しました。

その後、鶴岡公二元駐英大使が登壇し、（1）欧米諸国からの圧力による鎖国政策廃止後の近代化への道のり、（2）第二次世界大戦敗戦後、国際社会への復帰、（3）戦後の新たな国際秩序の中における日本の立場、および戦争から学んだ平和構築に向けた日本の外交方針、（4）安全保障における近隣諸国との関係、および資源の少ない日本にとっての国際平和、法の支配に基づく国際秩序、及び国際貿易の重要性、（5）「誰も取り残さない」人間の安全保障政策方針、及びODAの重要性について、同大使自身の外務省での経験談を交えながら、説明されました。

同プログラムには、多くのAAUの教員・学生などが参加し、日本の戦後の経済発展や外交政策の経験や教訓をエチオピアに適用できるか、活発な意見交換が行われました。

またこの機会に、伊藤大使よりエメベットAAU副学長に対し、日本財団からAAUに寄贈された日本関連図書75冊の図書寄贈式も行われました。



鶴岡元駐英大使による講義



JICA 森原所長によるスピーチ



グループフォト



伊藤大使によるスピーチ



日本財団図書寄贈式
(伊藤大使とアディスアベバ大学副学長)



聴衆の様子